

毎年、小・中学校ともに文章構成の工夫について考える問題が多く出題されています。
【例】のように、文章構成の工夫が読者に与える効果や、筆者の意図などが問われています。

- 【例】
- 筆者はなぜ冒頭にこの文を挿入したのか
 - 筆者はなぜ段落の順番を入れ替えたのか
 - 筆者はなぜ最初の一文を会話文にしたのか
 - 引用を用いた場合の効果について説明しなさい

本文に答えが書いてないため、内容の読み取りができるだけでは解けません。日頃から、相手意識、目的意識をもって「話す・聞く」「書く」「読む」等ができていくかどうか問われています。



これは、相川さんが身近にある便利なものを調べるために読んだ面ファスナーについての【資料】を読んで答える問題です。



小学校国語設問二の一

【問題文】

相川さんが読んだ【資料】の文章は、何について、どのよう¹に書かれていますか。次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

選択肢

- 1 面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過にそって書かれている。
- 2 面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれている。
- 3 面ファスナーの長所と短所について、一つの事例が取り上げられて書かれている。
- 4 面ファスナーの開発と広がりについて、筆者の問いとその答えがくり返し書かれている。

構成を工夫することによって読み手や聞き手により分かりやすく伝えることができるといふ経験や知識を、全ての学年で積み上げていくことが大切です。



各学年の発達段階に応じた指導方法を工夫しましょう

【小・中学年】段落相互の関係に着目する

- ① 話題提起
- ② 問1
- ③ 実験
- ④ 問1の答え
- ⑤ 問2
- ⑥ 観察
- ⑦ 問2の答え
- ⑧ 問3

Bさんの説明文は、問いの段落と答えの段落の間に実験や観察の結果を入れてあるから、答えだけ書いてあるより納得できるな。



【小・低学年】順序の工夫に着目する

Aさんはヨットカーについて「材料」↓「作り方」↓「遊び方」の順序で紹介しているね。

読み手が実際につくったり遊んだりするときと同じ順序になるように工夫されているんだね。

【中学校】根拠の示し方に着目する

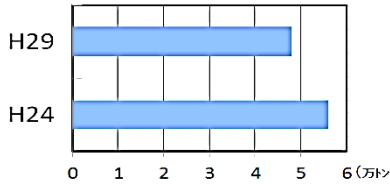
同じテーマの意見文を比較して...

同じテーマの意見文でもCさんの根拠はアンケート結果、Dさんの根拠は自分の経験だね。



【小・高学年】引用文や図表等の効果に着目する

西部市の1年間のごみの量



「リサイクルをしよう」と呼びかける理由を明確にするために、ごみの分別を導入する前と後のごみの量を比較するグラフを効果的に取り入れていたんだな。



構成の工夫について読み取ったり考えたりしたことについては「筆者の工夫辞典」等にまとめ、次の学年へと積みあげていくと同時に、子供たちが自分で説明文や意見文を書く際に参考にするなどの学習活動を取り入れることが大切です。